

# 「思い出いつぱいだね」

## こそだてシップ が震災後開設 米崎のママサロン閉会

陸前高田

大船渡市のNPO法  
人こそだてシップ（伊  
藤恰子理事長）が陸前  
高田市で平成23年から  
開設してきた「ママ  
サロン」は4日、最後  
の実施を迎えた。同市

でも子育てサークルな  
どの活動が少しずつ再  
開され、妊産婦が育児  
について相談できる環  
境が整ってきたため。  
最終回のこの日は、同  
寮会」と銘打ち、久々

に訪れた母親たちも集  
合。成長した子どもた  
ちの「足形」を取るな  
どして、これまでの5  
年半を振り返った。  
気仙在住の助産師有  
志らで創設されたこそ



だてシップは、大震災  
後の生活環境の変化に  
配慮し、1歳前後の赤  
ちゃんを育てる母親と  
妊婦が集える場をつく  
るうと、気仙両市にマ  
マサロンを開設。大船  
渡市では盛町のカメラ  
リ  
アホールで始まり、現  
在は同町のサン・リア  
ショッピングセンター  
に拠点を置く。

陸前高田市では米崎  
地区コミュニティセン  
ターで実施。月1回ペ  
ースで開設し、子ども  
の遊び場、体重計測や  
助産師への相談スベー  
ス、母親たちのハンド  
マッサージコーナーを  
設けるなどしてきた。

陸前高田で最後の開催  
となった「こそだてシ  
ップ」のママサロン。  
伊藤理事長とスタッ  
フ、母子らが再会を喜  
び合った。米崎コミセ  
ン（電子新聞に別写真  
あり）

また、ひな祭りには茶  
会を開くなど、子ども  
同士を遊ばせるだけで  
なく、母親たちがほっ  
と一息つける貴重な場  
にもなっていた。

これまでの開催は計  
65回。延べ参加人数は  
1348組、2324  
人。29の団体と延べ数  
百人からの支援を受け  
て毎月、一度も休まず  
に実施した。しかし発  
災から5年以上経過  
し、活動の助成金を受  
けることが難しくなっ  
てきていたという。

さらに、陸前高田市  
内でも子育て支援団  
体が立ち上がるなど、  
徐々に状況が回復して  
きたことから、「そろ  
そろ自立の時期」と判  
断。伊藤理事長は「陸  
前高田のお母さんたち  
が、子育て環境の充実  
を求めて声を上げ続け  
てきた結果だと思っ  
ると、女性たちをたたえ  
る。

最終回を迎えるにあ  
たっては、過去にママ  
サロンへ参加してきた  
気仙在住者にも広く声  
かけ。この日は「久し  
ぶりに来ました」とい  
う親子連れの姿もあ  
り、スタッフ子ども

たちに「大きくなった  
ね！」と優しく声をか  
ける場面もあった。

会場では子どもたち  
の成長を示す「足形」  
取りや写真撮影を実  
施。過去の写真をスラ  
イドショーにして上映  
するなどし、この5年  
半を一緒に懐かしく振  
り返った。

妊娠中、大船渡市の  
みなし仮設住宅で生活  
していたころから、こ  
そだてシップのメンバ  
ーに支えられてきたと  
いう及川カツエさん  
(46)も小友町も、  
久しぶりに参加。当時

はおなかの中にいた宝  
翔君も4歳になった。  
カツエさんは「オム  
ツなどの物資面だけ  
なく、精神面でも本  
当によくサポートして  
いただいた。月齢の近  
いお子さんもいたので、  
ここへ来ると育児書で  
は分からない生の情報  
を得ることができ、安  
心できた。充実した時  
間を過ごさせてもら  
いました」とスタッフに  
感謝。宝翔君もスタッ  
フにカメラを向けられ  
るとたちまち笑顔にな  
り、親子一緒に楽しい  
時間を過ごしていた。